

(様式1)

令和6年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 047	提案機関名 鎌倉漁業協同組合
要望問題名 養殖ワカメの食害対策とワカメ品種改良・種苗生産について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 漁閑期の冬場は、当漁協組合員の内7軒がワカメ養殖を営んでおります。 しかし、5年前から沿岸水温が上昇し、12月の種挿し後の養殖海面で、アイゴ等による食害が酷く、ワカメ養殖漁家は生産量が半減し、中には壊滅的なダメージを受けている漁家もある。その対策として、①養殖筏を食害を受けにくい所に移設したり、17℃以上でアイゴの食害被害が多発するので②12月下旬以降に種挿し時期を遅延させたり、③食害対策防魚ネット設置して、食害被害を何とか凌いでいる。 特に食害対策で実施している種挿し時期の遅延による生育不良が顕著なため、ワカメ種苗品種改良と合わせて、下記事項をお願いいたします。 ①ワカメの品種改良：種挿し時期の遅延により、早く生育する①早生ワカメ、冬場でも高水温のことがあるので②耐高水温種苗、③葉が大きく育ち肉厚で製品歩留りが良いワカメ ②ワカメ種苗生産：現在相模湾側のワカメ種苗生産を一手に担っている、金田湾の漁家が数年で種苗生産を辞めると聞いており、その際ワカメ種苗の不足が想定されます。水産技術センターとして上記品種改良と合わせて、ワカメ種苗生産に取り組んで頂きたい。 ③食害防護技術開発：安価で簡易に設置できる食害対策防魚ネットの開発や魚食性魚類の模型を使った水中案山子などの食害防試験の実施（海藻増殖でも応用できるものが理想）	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考 冬場のワカメ養殖は、三浦半島地区の漁業者の多くが営み、漁閑期の重要な収入源となっております。	

回答機関名	水産技術センター	担当部所	企画研究部
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 磯焼け対策事業費、フリー配偶体を用いたワカメの優良系統の開発			
対応の内容等 漁閑期となる冬場のワカメ養殖は、漁業者の重要な収入源となっておりますが、近年、アイゴやボラ等による食害被害が発生するとともに、水温上昇等による生育阻害もあいまって、大きな影響を受けています。食害の防止を図り養殖筏を網で囲う「食害対策ネット」を設置する試験を行ったところ、対照の未設置筏ではアイゴによる壊滅的な食害被害があったのに対し、食害対策ネットを設置した養殖筏ではほとんど食害被害がなかった、というような結果も得られています。 引き続き、食害を減らすような筏の設置方法や養殖時期について工夫を行ったり、他県等での対策事例を収集・普及するなどすることで、食害被害の低減に努めてまいります。 一方、現在、県内各地からワカメの母藻を取り寄せ、これらからワカメの種に相当するフリー配偶体の確保を実施しています。今後、これらの中から、早生ワカメ、高水温耐性、高成長などの優良株を選抜して、優良系統の開発を図って参ります。 また、水産技術センターによるワカメ種苗の生産・配布はできませんが、漁業者自身による種系生産の確保が出来るように、従来法よりも種系の作成が容易なフリー配偶体を用いた新しいワカメの生産方法について、漁業者と協力しながら開発、普及を進めて参ります。			

解決予定年限	①1年以内	②2～3年以内	<input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内	④5～10年以内
備考				